

平成9年10月



## 学校づくりとは授業づくり

国立教育研究所教科教育研究部長 中野重人

学校大変の時代といっ  
てよい。いま、学校の在り方が問われていることは、  
だれもが認めるところであろう。多くの関係者の努  
力にもかかわらず、校内暴力は後を絶たないし、い  
じめもなくならない。また、不登校(登校拒否)は増  
加の一途をたどっている。

ちなみに、昨年(平成8年度)の不登校は、小学校  
で19,488人、中学校では74,757人にのぼり、約9万  
5千人の子どもたちが学校に行っていない。その数  
は、平成7年度より1万3千人の増加であるという。

学校に来てほしい、行ってほしいといわれる中で  
この数である。これは、我が国の学校がこれまで  
経験したことのない極めて深刻な事態である。それ  
は、不登校が学校そのものの存立にかかわる事柄だ  
からである。

もちろん、不登校の要因がすべて学校にあるとは  
言えない。その要因は多様である。しかし、学校に  
もその大きな要因があることは、多くが認めるこ  
とであり、今、新しい学校づくりが求められている。

新しい学校づくりとは、これまでの学校を改め、  
変えていくことである。では、学校の何を変えれば、

新しい学校づくりになるのか。いろいろ指摘される。  
施設・設備の改善や、校内の態勢の問題もあろう。  
子どもと教師のコミュニケーションの在り方も問わ  
れているのかも知れない。

しかし、これらの多くの課題の中にあつて、新し  
い学校づくりの中心的課題はなんといっても授業で  
ある。授業を変えることである。なぜ、授業なのか  
は言うまでもあるまい。

ところが、その授業のやり方は、明治以降、基本  
的に変わっていない。一人の先生が多くの子どもを  
一斉に教える授業は、今日でもビクともしていない。  
ガマンとガンバリの授業である。

楽しい授業はできないのか。一人一人がわかり、  
より充実感をもつ授業はできないのか。一人一人を  
育てる個別化・個性化の教育が言われるようになって  
久しい。子どもの考えを大切にすること、活動の  
選択ができるようにすること、そして、どの子にも  
多くの出番があり、一人一人の個性を伸長する授業  
を創造することが必要とされている。TTも選択教  
科も、その新しい授業づくりへの一つの対応なので  
ある。

研究紹介

指定都市教育研究所連盟第11次共同研究

『子どもの社会認識をさぐる』  
—自己確立へのたび—

子どもの“自分さがしの旅”“自己確立への旅”を追跡してみました。その過程には自己や他者、社会や自然、文化などとの「かかわり」が存在しています。したがって、その「かかわり」をさぐることで、子どものそれぞれの“旅”の実相が明らかになると言えます。さて、現在、社会の急速な進展に伴い、この“旅”の表れ方が大きく変化してきているという指摘があります。

そこで、当教育センターが加盟し共同研究を行っている指定都市教育研究所連盟第11次共同研究（平成6～8年度）では、子どもの“自己確立への旅”の実相を、「感性」「文化」「身近な集団」「社会」の四つの窓（視点）から探りました。このたび、その研究の成果を出版物にまとめましたので、その一部を紹介します。

○調査対象

札幌市 仙台市 千葉市 川崎市 横浜市  
名古屋市 京都市 大阪市 神戸市 広島市  
北九州市 福岡市 以上12の各都市における

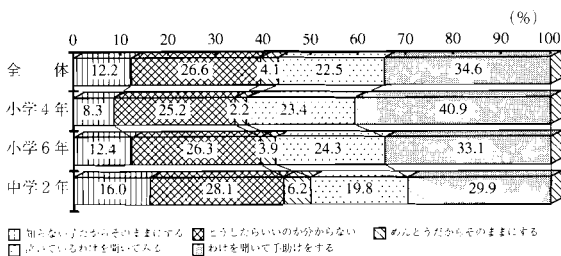
- ・小学校第4学年児童 4,800名
- ・小学校第6学年児童 〳
- ・中学校第2学年生徒 〳

計 14,400名

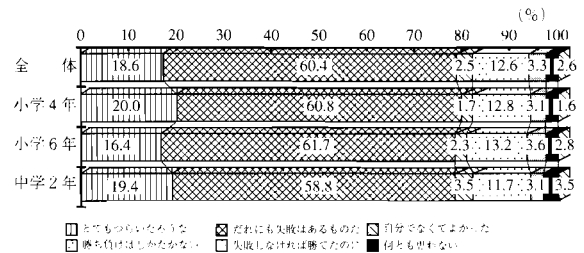
感性に裏付けられた行動志向は

“状況や相手によって異なる表れ方が”

遊園地で知らない子が泣いているのを見てどうするか



友だちの失敗で試合に負けたときどう思うか

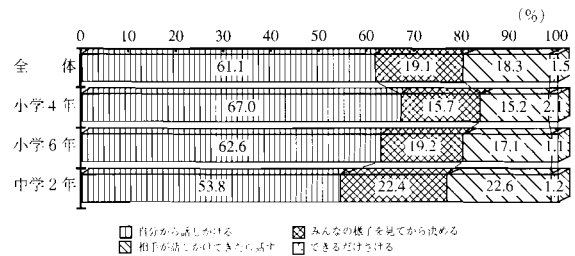


その表れ方の違いとしては、利害感情や生活経験の有無などがかかわっていることが考えられます。

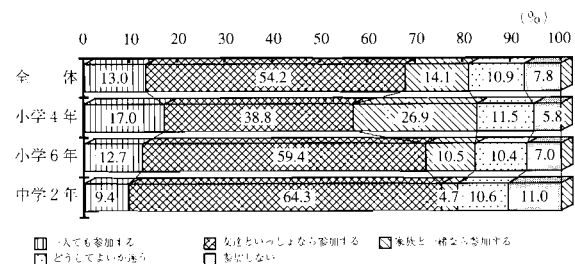
他者や集団・社会、文化へのかかわり志向は

“かかわりたいけど、何か抵抗感が”

学級に転入生がきたらどうするか



外国の人と交流会やパーティーをするとき、どうするか



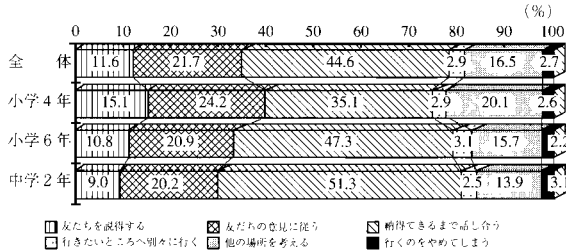
その抵抗感としては、人間関係が結ばれていない状況におけるはずかしさなどが考えられます。

また、両者の結果を重ねてみると、相関がみられました。人間とのかかわりにおける“積極群”（「自分から話しかける」「一人でも参加する」）を生む要因やその背景を追究して見る必要があります。

### 自己主張と異なるものへの受容感

“追随型と調整型、そしてマイペース型の三極に”

ハイキングの行き先の意見が分かれたとき、どうするか

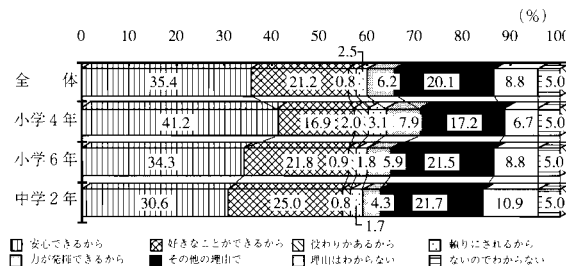


三極に分かれる背景には、そのときの人間関係や自分自身の願いなどがあるようです。しかし、この時期の子どもの異なるものへの受容感、その時々で揺れ動いているものかもしれません。

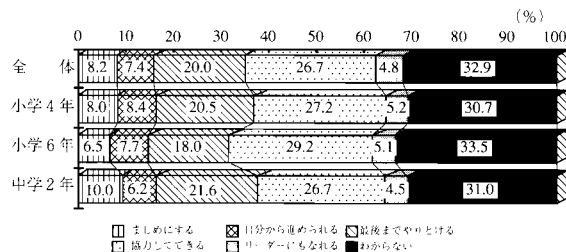
### 集団における自己意識

“心の居場所は、「安定感」からか”  
“自分自身のよさを認識しにくい子どもたちも”

集団に楽しさを感じるのはどんなことか



学級で友だちと仕事をするときの自分のよさはどこか

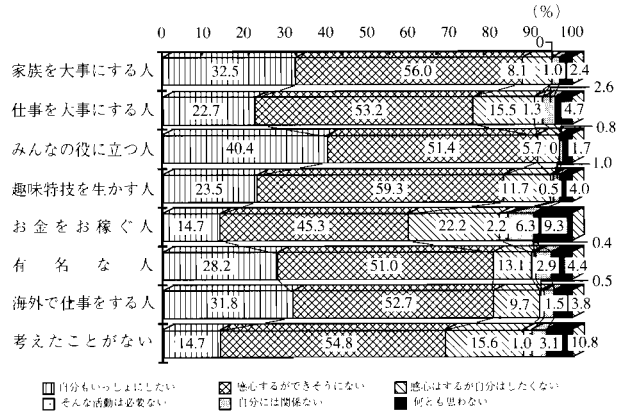


「楽しさ」の要因は、多くの場合“安定感”“有能感”などがもてるかのようです。したがって、子どもたちが自分自身の「よさ」を感得・認識できるような支援を充実させる必要があるでしょう。

### 子どもの将来設計とその背景は

“生き方の基盤となる感性に特徴が”

大人になったときどんな人になりたいか と ボランティア活動のニュースを見てどう思うか

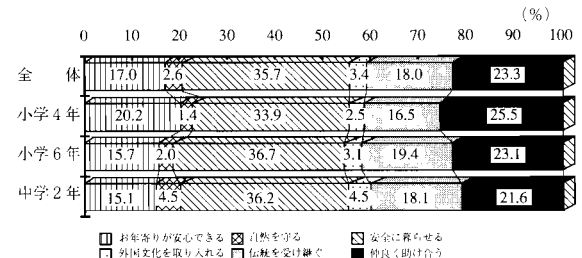


子どもたちの生き方の志向には、その基盤となる感性が影響しているようです。豊かな感性を育む指導の重さを痛感します。

### 子どもが求める社会像は

“「安心感」や「安定感」を求めて”

大人になったとき自分の住む町を何を大切にしたいか



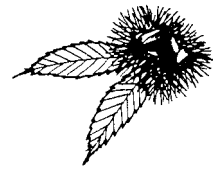
子どもたちの理想とする社会像をみると、「福祉の充実」「自然環境の保護」「相互援助」等といった、様々な環境と共生できる社会を志向しているようです。

詳細については、本年3月に各学校、幼稚園に配付しました『子どもの社会認識をさぐる』（指定都市教育研究所連盟編）を御覧ください。

子どもたちは、いつの時代においても、「よりよい社会の構築」を願い、様々な環境とかわりながら“自己確立への旅”を続けています。これらの結果が、その願いを実現させるための“人間とのかかわり”（人的環境）を充実させる視点となれば幸いです。

教育センター指導主事 木村 正信  
指導主事 尾形 慎治

## 21世紀を展望した教育研究の概要



21世紀を間近に控え、当教育センターでは、緊要な教育課題を解明し、各学校における教育のより一層の充実に資するため、指導主事が2年間にわたって次のような先行的・実践的な教育研究を進めています。

「生きる力」を育む教育環境の創造に関する実践的研究  
(教育経営) H 8 ~

「生きる力」を育む教育情報のシステム化の在り方を追究する研究です。

指定都市教育研究所連盟の研究  
(研究主題 未定)

H 9 ~

研究主題はまだ未定ですが、大都市における子どもの意識や生活実態の実相を探ります。

小・中学校における「生きる力」を育む学習指導法に関する実践的研究  
(学習指導) H 9 ~

総合単元を設定して「生きる力」を育むための学習指導法を追究する研究です。

福祉教育・ボランティア活動の推進に関する実践的研究  
(福祉教育) H 9 ~

豊かな心を培うための福祉教育・ボランティア活動の在り方を追究する研究です。

小学校における「総合的な学習の時間」の国際理解教育に関する研究  
(国際理解教育) H 8 ~

小学校における外国語(英語)教育を国際理解教育の視点から追究する研究です。

いじめ・不登校を未然に防ぐ援助・指導の在り方に関する研究  
(教育相談) H 8 ~

児童生徒の心の居場所となる学級づくりの在り方を追究する研究です。

論理的思考力を育てる読みの指導法に関する研究  
(国語科教育) H 8 ~

中学校国語科において論理的思考力を育てるための読みの効果的な指導法を追究する研究です。

中等理科教育における情報通信ネットワークの活用に関する研究  
(理科教育) H 9 ~

インターネットを活用した理科教育の在り方と実践上の課題について追究する研究です。

主体的な鑑賞態度を育てる題材開発に関する研究  
(図画工作科教育) H 8 ~

高学年の図画工作科における主体的な鑑賞態度を育てる題材開発の在り方を追究する研究です。



# Q&A おこたえします

## ～教育相談室から～

### 多動行動を示す子どもの理解

**Q** 落ち着きがなく、なかなかじっとしていることができません。教室の中を歩き回ったり、不意に教室の外に出たりします。その度に、注意・指導するのですが、目を離すとまた繰り返します。どのように指導すればよいのでしょうか。

**A** 子どもは成人に比べると、本来じっとしていないものです。しかし、御質問の子どもについては、いわゆる多動行動を示す子どもかもしれません。一般的に多動行動を示す子どもは、次のような特徴を示すことが多いようです。

- ・注意の集中・持続が困難である。
- ・自己コントロールができず衝動的である。
- ・刺激への反応が過敏である。

などです。

いずれにしても、その対応としては、対症療法的な指導だけでなく、その行動の背景や要因を探っていくことが大切です。そして次に、その活動性や興味・関心を生かした指導の在り方を考えていくことが必要です。

具体的な対応例をいくつか紹介します。

### 子どもの行動をよく観察する

子どもの行動をよく観察しましょう。多動行動を示す子どもも、集中することがあるはずですが、それは、電車を見つめることであつたり、紙の感触を楽しんだりすることであるかもしれません。またその他、感覚的な遊びを好んだり、砂や水、音、光などにこだわったりすることもあるでしょう。

子どもの行動をよく観察し、興味・関心を把握して、その行動につき合うことが、子どもとの人間関係づくりにつながります。

なお、このことは、子どもの事故やけがの防止にも役立つでしょう。

### 見通しの持ちやすい活動を用意する

子どもに行動をコントロールする力を育てるためには、興味・関心があり、見通しの持ちやすい活動を用意することが大切です。

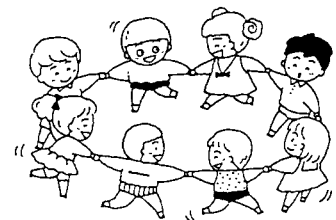
多動行動を示す子どもは、状況の判断が苦手です。そこで、興味・関心のある課題や分かりやすい課題を用意し、何をしたらよいかを具体的に指示をしたり、援助したりする必要があります。

見通しを持って課題に取り組むことが、注意の集中・持続につながります。課題への集中が少しでもできるようになれば、しっかり認めたり、ほめたりするようにしましょう。このようにして、少しずつ課題に取り組む時間を増やしていくわけです。

### 運動を多く取り入れる

多動行動を示す子どもは、動きのある活動を好みます。特に、とんだり、はねたりする活動を好むようです。周りから見ると、このような行動は単調で、どちらかというとなり無意味なことのようには思えますが、本人にとっては心の安定につながっている場合が多いようです。合図に合わせて動いたり、バランスをとったりするなど、行動をコントロールする要素を運動の中に多く取り入れることが、多動行動を改善することにつながります。

教師間で、あるいは教師と保護者との間で、子どもへのかかわり方が異なると、子どもが混乱し、状態がひどくなることがあります。指導は共通の認識のもとに行うことが大切です。



広島市教育センター 教育相談室 (082) 223-4152  
いじめ110番 (082) 223-4420  
教育相談室(分室) (082) 264-0422

## 取り入れてみましょう

- 学習成果の発信—ポスターセッション—  
社会科教育 (小)

学習過程における子どもの五感（目的感、見通し感、一体感、有能感、達成感）の表れは……。子どもがこれらの感情を強く抱いているとき、主体的な学習が展開されているのではないのでしょうか。

主体的な学習を展開するために教師は、教材・学習材の精選、適切な学習課題の設定など様々な工夫を講ずるのですが、その一つに学習成果を発表する学習形態であるポスターセッションがあります。

ポスターセッションは、自分の関心がある事項を調べ、それを学習情報としてまとめ・発信するとともに、自分の関心に応じて情報を受信し、自分が発信したことをより豊かなものにする学習活動です。この活動の特性を生かすことによって、子どもの「五感」が刺激され、学習をより活性化、機能化させてくれると思います。（担当：吉竹）

## 引き出しましょう

- 学習意欲を高める「予想」の活動  
数学科教育 (中)

「なぜだろう?」「どれが正しいのだろう?」など、子どもの主体的な問題解決の活動を目指して教師は、「?」的な学習問題を設定し、子どもの知的好奇心や学習意欲を喚起することに努めます。しかし、それが「調べてみたい」「証明してみたい」などの意識へと発展していかないことがありますか。

その原因として、学習問題が「たぶん○○だから△△になるのだろう」という「予想」する活動を誘発するものでなかったり、そのための時間が確保されていなかったりすることなどが考えられます。

そこで、子どもの豊かな知的好奇心を刺激するとともに、既習事項を生かしながら創造的な活動を促す学習課題を設定する必要があります。「ある命題の正偽を確かめる問題」「ある条件を満たすものをすべて挙げる問題」などは、適切な学習問題の類型例です。

(担当：尾形)

## 心がけましょう

- 「指導的評価」による支援を  
生活科教育 (小)

活動や体験を深化・発展させる必要が特にある生活科では、「ほめて育てる」学習支援が大切になってきます。授業中の児童の活動に対する教師の肯定的評価（言葉かけ）は、「指導的評価」による支援と呼ばれ、特に児童の活動意欲を高めます。

例えば、①「ここがすばらしい」「こんないいところがあるよ」と具体的な事実をとらえ、児童の個性を認めたり励ましたりして活動への意欲を喚起させる支援、②活動的でない児童が学習に参加できるように、一人一人のよさを見つけてほめる支援、③どうすればできるようになるかといったように、児童がどんな方向で活動に取り組んでいけばよいかを具体的に示唆することによって、ねらいに対して学習を方向づける支援などがあります。

平素、心がけてみてください。

(担当：木村)

## 取り入れてみましょう

- 校内ギャラリーを取り入れた鑑賞指導  
美術科教育 (中)

生涯学習・国際理解教育等の観点から、鑑賞指導の充実が求められています。鑑賞指導の一環として、校内の多目的ホールや空き教室、階段の踊り場、廊下などを利用した校内ギャラリーをつくってみませんか。

授業での作品、美術部・教師・保護者による美術作品の展示はもちろんですが、楽しい工夫を凝らしてみませんか。例えば、美術館の企画展と連携したミニ企画展や作家紹介コーナーをつくったり、美術館のコレクションを借りて「世界児童画展」を実施したりすることも可能です。また、生徒がテーマに基づいて作家の作品（写真や印刷物）を収集し、手作りの額に入れて、○○美術館、○○展等を企画することも可能です。

生徒が美術作品に出合える機会を積極的につくり、作品の鑑賞が楽しめるよう心がけてみてください。支援します。

(担当：福原)

# 教育実践のアイデア

## 教育関係資料の紹介

教育センターでは多様な教育活動に対応するため教育情報を計画的に収集・整備しております。ここでは、平成9年度に購入したビデオ教材を紹介します。

教科・領域	内 容	時間(分)	教科・領域	内 容	時間(分)
算数科教育	四角形の不思議	20	障害児教育	障害を持った人とのふれあい	20
社会科教育	大崎下島	8		こうして話せばいいんだね	18
音楽科教育	音の響き	15	環境教育	環境教育シリーズ	17
	○日本の太鼓と祭り			○第2の自然環境—水田—	
○打楽器の響き	○森は海の恋人	15			
家庭科教育	安全な食品の選び方	20	安全教育	○江戸のリサイクルに学ぶ	15
保健体育科教育	創作ダンス	20		0-157と食中毒	17
特別活動	いい子・わるい子 —反抗期と心の成長—	27	—調理場での対策—		

この他にも教育図書、教育雑誌、各学校・幼稚園の実践研究物等も収集しております。ぜひ御活用ください。

## 教育研究発表大会より

「熱心な発表で参加していて幸せでした」

この言葉は、8月7日に「21世紀に向けた教育の創造」をテーマに開催した第4回研究発表大会に参加された方のアンケートに書かれていたものです。

今年は、新しい試みとして指導主事の研究に加え、当教育センターで半年間研修された方の成果も発表いたしました。「意欲を育てる教育、子どもが主役の教室、課題解決型の学習等新しい教育の在り方を聞き、今後の教育実践に生かしていきたい」、「発表される先生方の教育への情熱に触発された」という声も、多く寄せられました。

講演会では、農業社会から工業社会へ、そして、これから子ども達が生きていく高度情報通信社会へと社会が変化するにつれて、学校も変わっていくこと、それゆえ、教師自身も発想を転換すべき時期にきていること等について、金子照基教授（安田女子大学）からお話がありました。また、「一定の知識を刷り込む」教師から、一人一人の学習者の発達課題・学習課題を診断し、「共感的理解」を踏まえて指導する資質・能力をもった教師への転換がこれからは必要とされるという示唆をいただきました。

約150名もの参加者により盛会に終わった研究発表大会。来年も、ぜひ、御参加ください。



# 教育センターひろば

## 研究協力員

教育センターの指導主事が前掲のような教育研究を進めるに当たって、次の方に研究協力員をお願いしています。

### 平成9年度 研究協力員

研究領域 (担当者)	研究協力員名 (所属校・園)
国語科教育 (森下 幸子)	吉川 美子(温品中学校) 高島三枝子(己斐上中学校)
図画工作科教育 (福原 正明)	出来谷祐治(比治山小学校) 市川 博登(落合東小学校)
国際理解教育 (松脇 守弥)	庄野 英憲(本川小学校) 野澤 久美(宇品中学校)
教育相談 (三原 裕隆)	有田多佳子(伴小学校) 高島 優(亀崎中学校)
教育経営 (神津 住男) (井坂 雅浩) (前田 憲壮)	高本 正子(幟町小学校) 稲垣 幸一(竹屋小学校) 丸岡 泰司(日浦小学校) 澤村 博彦(牛田中学校) 渡部 浩(中広中学校) 久都内文治(三入中学校) 中堀 恵(広島商業高等学校) 高橋 幸宏(広島工業高等学校)
学習指導 (吉竹 邦昭) (首藤 龍磨)	穂山 和也(八木小学校) 隅田加代子(安北小学校) 福永 慶二(楽々園小学校) 今田 克則(段原中学校) 真田謙一郎(己斐上中学校) 大下 恵子(安佐中学校) 升原 一昭(安西中学校)
ボランティア教 育 (砂原 文男) (中山 千恵) (木村 正信)	飛騨 恩(己斐小学校) 亀宝真由美(長東西小学校) 瀬戸まゆみ(高陽中学校) 村尾栄二郎(瀬野川東中学校) 塚本 修一(安佐北高等学校) 井筒 敦子(温品幼稚園) 吉村 陽子(船越幼稚園)
理科教育 (松浦 俊雄)	渡邊 俊二(占田中学校) 藤岡 哲(美鈴が丘高等学校)

題字 広島市立宇品小学校校長 増田 義法  
表紙絵 広島市立早稲田中学校教頭 西村 達男

## 教員長期研修生 (平成9年10月～平成10年3月)

今年度後期は次の7名の方が、教育センターにおいて研究を進めておられます。

- 国語科教育：古澤 恵 (矢野小学校)
- 生活科教育：古田 真美 (安東小学校)
- 障害児教育：村上 淳 (真亀小学校)
- 技術・家庭科教育：河原 正典 (福木中学校)
- 道徳教育：早川千奈美 (幟町中学校)
- 教育相談：西岡 美穂 (祇園中学校)
- 幼稚園教育：田岡真貴恵 (矢野幼稚園)

## 広島市立学校教育研究生 (平成9年7月～12月)

今年度は次の17名の方が、教育センター及び在勤校において、研究を進めておられます。

### 平成9年度 広島市立学校教育研究生

校種	研究部門	名前	所属学校
小 学 校	社会科教育	砂田 勝造	草津小学校
	理科教育	平岡 康生	五日市小学校
	音楽科教育	河邊 昭子	安西小学校
	図画工作科教育	荒川 さち子	五日市南小学校
	特別活動	大久保 智恵	狩小川小学校
	教育相談	坊田 裕紀子	矢野小学校
	障害児教育	山本 伸生	八木小学校
中 学 校	教育工学	藤原 卓哉	舟入小学校
	保健管理	越智 祐美	天満小学校
	国語科教育	寺澤 紀子	似島中学校
	数学科教育	梅川 元祥	己斐中学校
	理科教育	桂木 浩文	安西中学校
	外国語科教育	垣内 伸生	早稲田中学校
	保健体育科教育	新川 恵美	口田中学校
幼 稚 園	生徒指導	野澤 久美	宇品中学校
	技術・家庭科教育	福岡 千佳	三入中学校
幼稚園教育	松永 泰子	長東幼稚園	

## 編 集 後 記

実りの秋を迎えました。今回の所報も、皆様の教育実践の一助となれば幸いです。